

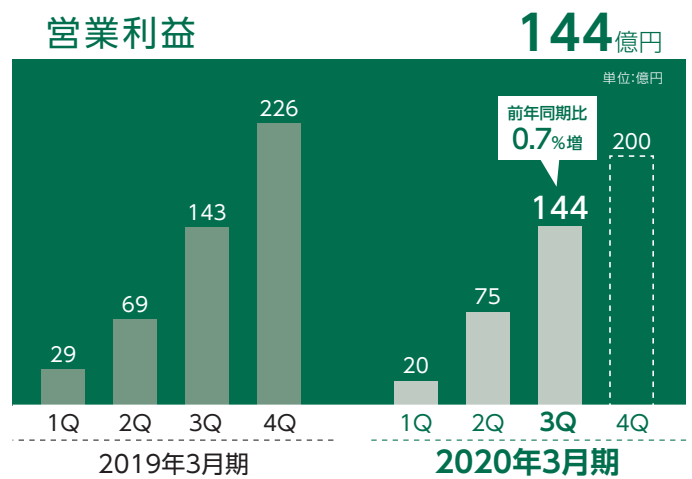
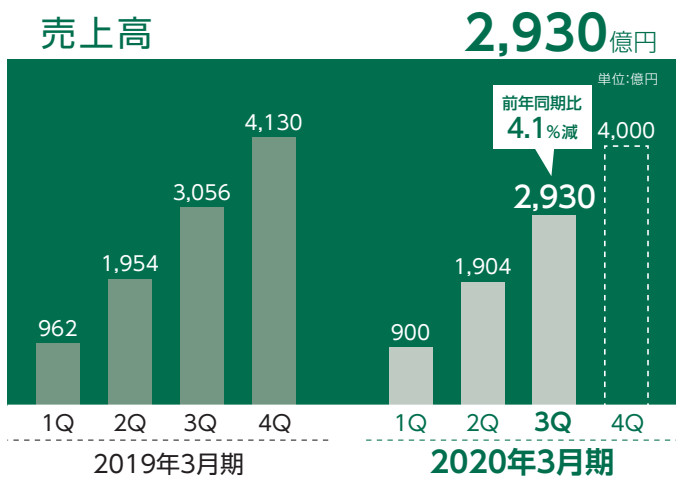
株主のみなさまへ

## 第16期 第3四半期 決算のご報告

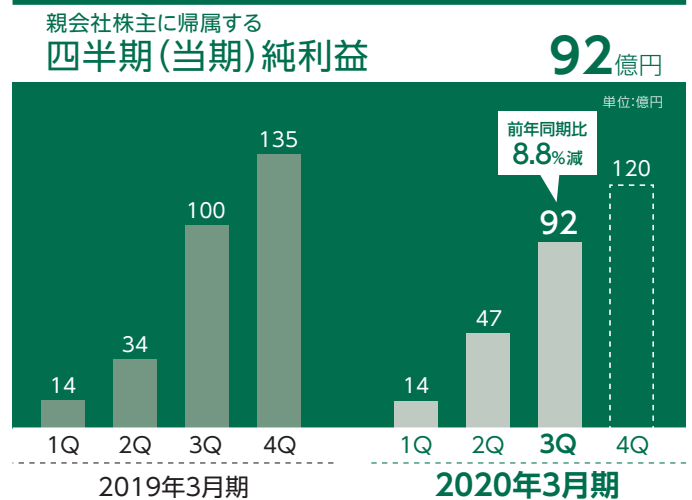
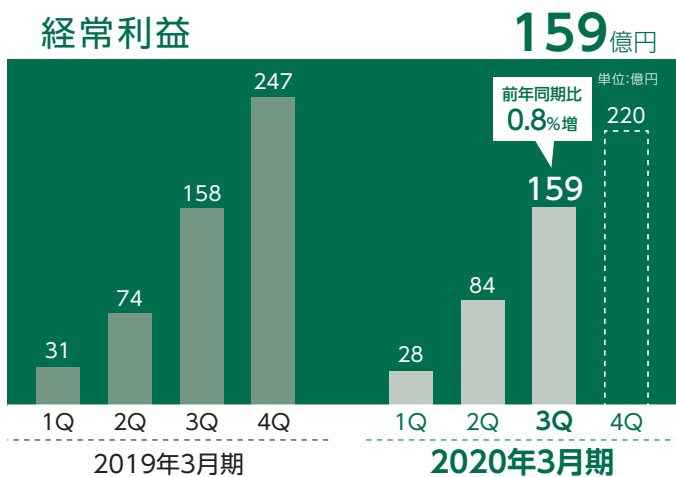
2019年4月1日から12月31日まで

証券コード:6674

### 連結業績ハイライト



のれん等償却前営業利益  
(2020年3月期3Q) **161** 億円(前年同期比0.3%減)



のれん等償却前親会社株主に  
帰属する四半期純利益  
(2020年3月期3Q) **108** 億円(前年同期比9.0%減)

主として自動車電池事業における鉛価格の下落に伴う販売価格の低下や円高の影響などにより減収となりましたが、据置用鉛蓄電池および電源装置の販売が好調に推移したことなどにより微増益となりました。

## TOP MESSAGE



平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第16期(2019年4月1日から2019年12月31日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国においては雇用および所得環境が良好であり個人消費は堅調に推移しましたが、中国の景気は、米国との通商問題などを背景に減速傾向となりました。また、欧州においては、雇用環境が改善傾向にあり個人消費は堅調に推移したものの、Brexitをめぐる先行き不透明な状況が続きました。一方、わが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に国内需要を中心に底堅く推移しておりますが、消費税率引上げ後は国内需要がやや弱い動きとなりました。

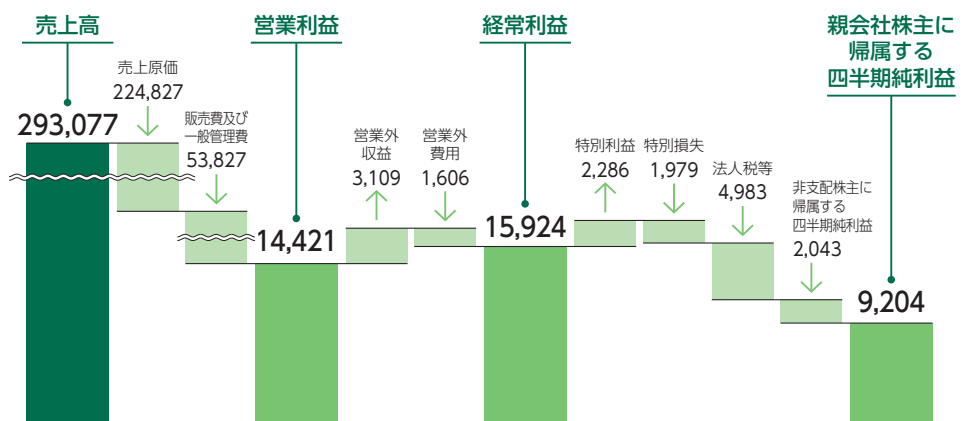
このような経済状況の中、当社グループでは、主として自動車電池事業における鉛価格の下落に伴う販売価格の低下や円高の影響などにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,930億77百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて125億69百万円減少(△4.1%)しました。一方、営業利益は、据置用鉛蓄電池および電源装置の販売が好調に推移したことに加え鉛価格の下落の影響などにより144億21百万円(のれん等償却前営業利益は161億15百万円)と前第3四半期連結累計期間に比べて1億6百万円増加(0.7%)し、経常利益も159億24百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて1億23百万円増加(0.8%)しました。これに対し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益の減少や関係会社整理損の計上などにより、92億4百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は108億96百万円)と前第3四半期連結累計期間に比べて8億86百万円減少(△8.8%)しました。

代表取締役  
取締役社長 村尾 修

## 連結損益計算書

[当第3四半期(累計)] (2019年4月1日~12月31日)

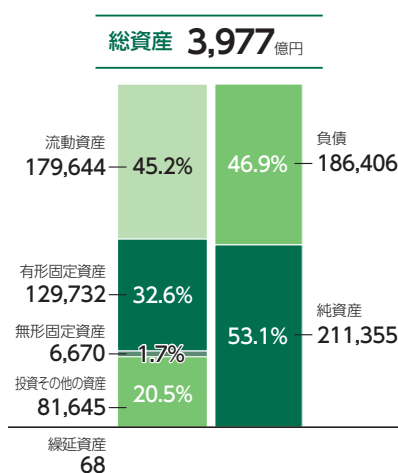
(百万円)



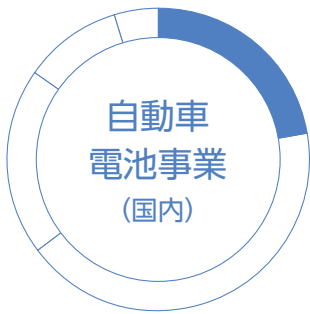
## 連結貸借対照表

[当第3四半期末] (2019年12月31日)

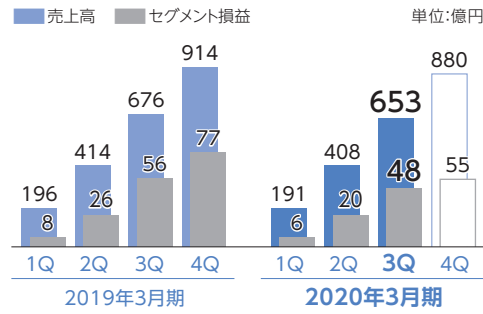
(百万円)



[セグメント別連結業績]



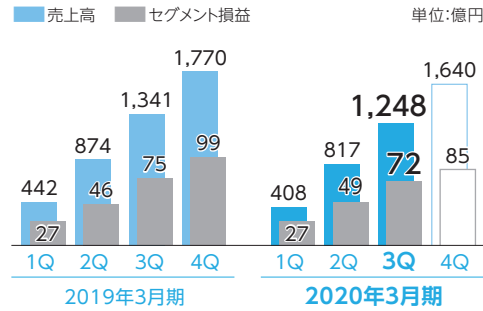
売上高  
**653**億円  
構成比  
**22.3%**



売上高 前年同期比 **3.5%減**  
 新車用の販売数量は堅調に推移したものの鉛価格の下落に伴う販売価格の低下の影響などにより減少。  
 セグメント損益 前年同期比 **14.3%減**  
 販売価格の低下や経費増加により減少。



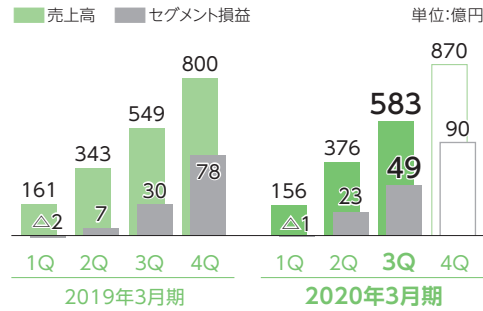
売上高  
**1,248**億円  
構成比  
**42.6%**



売上高 前年同期比 **6.9%減**  
 四輪用および二輪用の販売数量はともに堅調に推移したものの、鉛価格の下落に伴う販売価格の低下に加え、円高の影響もあり減少。  
 セグメント損益 前年同期比 **3.6%減**  
 売上高減少に伴う粗利の減少に加え経費増加などの影響により減少。



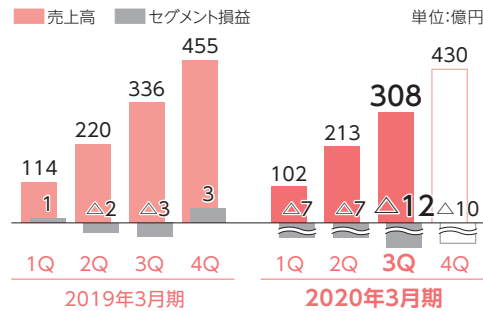
売上高  
**583**億円  
構成比  
**19.9%**



売上高 前年同期比 **6.3%増**  
 主として据置用鉛蓄電池および電源装置の販売が好調に推移したことにより増加。  
 セグメント損益 前年同期比 **61.2%増**  
 売上高増加の影響に加え、鉛価格の下落の影響などにより増加。



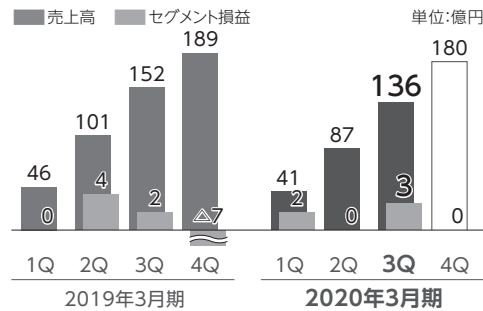
売上高  
**308**億円  
構成比  
**10.5%**



売上高 前年同期比 **8.5%減**  
 主としてプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したことにより減少。  
 セグメント損益 前年同期比 **—**  
 売上高減少の影響に加えて12Vリチウムイオン電池事業立上げに伴う費用増加により減少。



売上高  
**136**億円  
構成比  
**4.7%**



売上高 前年同期比 **10.2%減**  
 特殊用途の大型電池を中心に販売が減少したことにより減少。  
 セグメント損益 前年同期比 **17.6%増**  
 経費削減などにより増加。

(注)1 セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

(注)2 2020年3月期より、従来「自動車電池事業(海外)」に含まれていた一部の連結子会社等について、「産業電池電源事業」にセグメントを変更しています。2019年3月期のセグメント情報は、変更後の業績を記載しています。

## TOPICS 1

### 海外初となるリチウムイオンバッテリー生産拠点、ハンガリー新工場を稼働開始

株式会社 GSユアサはハンガリーに2017年10月に設立した100%子会社GS Yuasa Hungary Ltd.(ジーエス・ユアサハンガリー)にて、2019年10月より自動車用12Vリチウムイオンバッテリーの新工場を稼働し、欧州自動車メーカーへの出荷を開始しました。

欧州において需要拡大が見込まれる自動車用12Vリチウムイオンバッテリーを供給するため、当社最新の自動化された生産ラインを導入し、日本で製造したリチウムイオンセルを組み立てて、バッテリーを製造。初期年間生産能力は50万個ですが、将来的には大幅な生産能力の拡大と、リチウムイオンセルの製造も検討します。



## TOPICS 2

### 容量劣化半減など大幅改良、「LIM50ELシリーズ」を販売開始

従来品から寿命特性などを改良し、頻繁に充放電が行われる用途や高温環境下でも、より長期間ご使用いただくことが可能となりました。「LIM50ELシリーズ」は機器の電動化からあらゆるインフラ設備の防災対応に貢献するだけでなく、今後のVPP※などの電力需給調整市場でも活躍します。

※VPP(Virtual Power Plant)  
点在する小規模発電、蓄電池などの電力設備と、電力の需給調整を行うネットワークをまとめて制御する次世代電力網のこと。

産業用リチウムイオン電池モジュール  
[LIM50ELシリーズ]



## TOPICS 3

### 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言に賛同およびTCFDコンソーシアムへ参加

TCFDは、G20の要請を受けた金融安定理事会(FSB)により設立されました。2019年5月に設立されたTCFDコンソーシアムでは、企業の効果的な情報開示や、開示された情報を適切な投資判断に繋げるための取り組みについて、議論が行われています。

当社グループは、温暖化に伴う気候変動が社会にとっての重要な課題のひとつであると認識し、社会全体の温室効果ガス排出量の削減に貢献するべく、取り組みを進めており、今後は、TCFDコンソーシアムにおける議論も踏まえながらTCFD提言に基づく情報開示を進めてまいります。

#### 会社概要 (2019年12月31日現在)

商号 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
(GS Yuasa Corporation)

事業目的 電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。

設立 2004年4月1日

資本金 33,021百万円

本社所在地 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地  
電話(075)312-1211

ホームページ <https://www.gs-yuasa.com/jp>

上場金融商品取引所 東京証券取引所市場 第1部

#### ホームページのご案内

より詳しい情報は、  
当社IRサイトをご覧ください。

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/>

こちらから  
アクセス  
できます。

